

韓国ポータルメディアにおける対日ナショナリズム ー「ミニ韓日戦」を中心に Sports Nationalism in Korean On-Line Media: Rivalry with Japan

スポーツ文化研究領域

5012A015-3 金 東賢

研究指導教員：トンプソン リー A. 教授

第1章 序論

1. 研究背景

終戦後の韓国において日本は最も重要な他者として存在してきた。スポーツにおける日本も、その記憶やスポーツの勝敗構図から「勝たなければならない」「宿敵」として存在した。そしてそこには日本を宿敵と設定し、克服・超越すべき対象として作り上げたメディアがあった。近年においてはウェブメディアが主流となって対象化された「日本」を消費している。韓国スポーツメディアは海外舞台で韓国人選手・チームが日本人選手・チームと対戦すること「ミニ韓日戦」と呼び始めた。

2. 研究目的

「ミニ韓日戦」はいかにして作りあげられ、いかなる構図で伝えられているのか。そして先行研究で指摘されている従来の対日ナショナリズムと共通点および「ミニ韓日戦」の報道における特徴を見出すことはできるのか。これらの問題を明らかにすることが、本研究の目的である。

第2章 先行研究

黄(2009)は韓国メディアが日本に対してアンビバレントな面を持つとしながらも「韓国のメディアの日本に対する姿勢が依然として批判的である」と指摘した。

また岩田(2001)によると、韓国新聞は「韓日戦ではさらにナショナリズムが強調される傾向が強い」。

そして Yang(2012)はスポーツアスリートが「グローバルゼイションの中で韓国と韓国人の競争力と表象として再現される」存在と述べている。

第3章 研究方法

韓国で最も多い利用者数を持つポータルウェブサイト「NAVER」がはじめてサービスを開始した 1999 年 6 月 1 日から 2013 年 6 月 30 日までの 15 年 1 ヶ月間の期間内に本文や見出しに「ミニ韓日戦」が一致する記事を研究の対象とした。抽出された記事を集計し、年度による記事数の変化、種目ごとの記事数の差そして記事の発行元を調べた。また、六つのニュースフレームを設定、1 記事当たり最大三つを抽出し、分類を行った。「ミニ韓日戦」では韓国や日本はどのようなニュースフレームが描かれ、フレーム間の結合形態を分析した。またその結果を基礎に事例を挙げながら質的分析を行い、「ミニ韓日戦」が持つ意味やその中で表象される韓国や日本を明らかにした。ニュースフレームの定義は以下の表に従った。

フレーム	構成内容
韓国優越主義	試合における韓国選手やチームの勝利価値を強調する
日本排外主義	試合における日本選手やチームの否定的評価を強調する
無関係な国家主義	試合内容とは無関係に韓国を思わせるような描き方を取る
楽天主義	試合内容とは無関係に韓国人選手を称賛する
実力主義	国籍とは無関係に試合内容や結果で選手を評価する
ストレート	「ミニ韓日戦」の単純な情報のみ伝える

第4章 結果・考察

「ミニ韓日戦」の報道は 271 件検出された。2002 年始めて登場して以来、2009 年や 2010 年に多少減少するなど

年度ごとにばらつきはあったものの年々増加する傾向を見せている。最も記事数が多かった種目はサッカーの 208 件であった。メガスポーツイベントとは違い、世界舞台に進出する両国の選手やチームの数によって試合の数も流動的に変わるため、年度・種目別に差が見られると考えられる。また韓国のスポーツヒーローとして描かれるパク・チソンが行った「ミニ韓日戦」の記事は 72 件と個人では最も多い数値を示した。そして記事の発行元ではオンライン媒体が圧倒的な数値を占めた。紙媒体の電子版を含む結果となっており、「ミニ韓日戦」の報道は主にオンライン上でされていることがわかった。

各カテゴリーの分類結果からは「韓国優越主義」が最も多く、「無関係な民族主義」は 3 番目と、「ミニ韓日戦」の報道でも依然として自国中心的な報道がされていることが明らかになった。一方、「実力主義」が 2 番目に多く、「日本排外主義」下から 2 番目の結果から「ミニ韓日戦」の表現から対決構図は作り上げるも従来の対日スポーツナショナリズムで最も見られた日本に対する政治的・歴史的問題と絡まれた過度なライバリーは多少薄れていると見られる。しかしながら各フレームの結合形態を調べたところ、「日本排外主義」は 2 件を除くすべての記事が「韓国優越主義」と共に表れた。一方的に日本人選手やチームを否定的に評価する記事は数的に少ないとしても日本人に否定的な評価を下す際には韓国人選手やチームの勝利価値が強調されるニュースフレームが必ず同時に見られることが多いと考えられる。

質的分析ではまず韓国スポーツメディアはあえて「対決構図」として作り上げていることも読み取れた。「ミニ韓日戦」を戦う本人たちはお互いの「国籍」について殆ど気にしてなく、むしろ親近感が漂うコメントが見られるなど、特別なライバルとして意識する様子は見当たらなかった。しかし韓国メディアはインタビューで現れた親近感は省き、対戦構図を強調する書き方を取っていた。「克服・超越すべき」対象として日本を眺めていると考えられる。そして日本はグーロバリゼーションされたプロスポーツの中で韓国の存在感を国内においてより強調するためのツールとして機能する。日本人より優れたパフォーマンスを残すことが「プライド」を獲得し「微笑むことができる」ことになるのはそのこと自体が「日本を倒した」こととなり、日本人/チームに勝つこと

=「日本」に勝つことと再現される。日本をただ登場させるだけでなく、否定的な評価を下して自国を強調する際にも発動された。日本人選手とのパフォーマンスを照らし合わせる際に韓国のパフォーマンスを好評しつつも日本を酷評したり嘲弄する表現を使い、韓国の勝利価値を強調する一面を見せた。依然として「克服・超越すべき対象」としての日本像が織り成されいると考えられる。このように、ミニ韓日戦は単なるプロスポーツの枠組みとしてではなく、「過去の記憶」によって克服・超越すべき国家として描かれる個人やチームが、グーロバリゼーションされたプロスポーツの中でもライバルの構図が維持されている表現である。メディアがそのライバルの構図を「ミニ韓日戦」と表現していることは今までの対日スポーツ報道の構図ではなかった新たな表現であるうえに、メディアスポーツと機能させるための試みであるといえよう。

第 5 章 結論・今後の課題

本研究では、二つの分析を通じて、韓国メディアが作り上げる「ミニ韓日戦」の構図、そしてそこに練りこまれている日本像を明らかにした。「日本」を克服・超越する対象とするメディアの眼差しが、スポーツのグーロバリゼーションの中でプロの試合と結合され新たな対決構図として「ミニ韓日戦」を作っている。

しかし、本研究のデータベースで使われたポータルウェブサイトの理解が足りなかった。特にポータルウェブサイトにおけるコメント機能を利用した相互作用的特性を見出す調査は本研究では行っていない。

また韓国スポーツメディアだけを研究対象としているため、同じく当事者である日本のスポーツメディアを用いた比較研究を行っていない。日本のスポーツメディアも研究対象とし、共通する試合に振り絞り、比較を行うことでもっと明瞭かつ興味深い研究になると考えられる。以上のことを踏まえ、今後の研究に取り組みたい。

